

## UCI 側の「虚偽の主張」と「原理とみ言」の比較対照一覧表

テーマ	「目次」の参照項目	郭錠煥氏の『事必帰正』	金鍾奭著『統一教会の分裂』およびUCI側の主張	「原理」とお父様のみ言
摂理の中心は誰か？	第一章 第一節 (一) 「復帰摂理の中心が創始者ではない」の誤り	「『摂理の中心は誰か』という質問では、 <b>顯進様は神様が中心であることを明らかにされました。……祝福家庭が摂理の中心が真の父母様であると間違っ理解し、さらに神様さえも忘れて生きているからです</b> 」(p511)	「彼（注、文顯進様）は、復帰摂理の中心が <b>創始者（注、お父様）ではなく、創造主である神様であることを主張する</b> 」(p63)	「 <b>メシヤを中心として、復帰摂理は完成される</b> 」(『原理講論』 p282)  「 <b>救いの摂理の中心は神様ではありません。創造の時は神様が中心でしたが、墮落は人間がなしたために、人間に責任が伴うようになるのです。罪を犯したならば、刑務所に行くのは……罪を犯した本人なのです。それと同じく、墮落は人間がなしたために、人間を中心として再創造過程を経て、墮落しなかった、それ以上の峠を越えてのみ人類の解放と平和の世界が訪れることを、誰よりもよく知っておられるのが神様なのです</b> 」(『祝福』 1992年夏季号 p16)
メシヤを神格化している？	第一章 第一節 (二) 「創始者を神様の実体として崇拝」批判する誤り	「 <b>私たちはメシヤも『人』であるという原理を学びながら、いざ実生活では、しばしばメシヤを神格化し、またこの誤った信仰をそれとなく誇示する間違いを犯したりします</b> 」(p65)  「 <b>真の父母様を神格化することは、み言葉や原理の教えと一致しません</b> 」(p67)	「統一教会が創始者を創造主・神様と一体を成した存在、 <b>神様の実体として崇拝してきたのと違い、文顯進は創始者を創造主・神様の理想を実現する為に一生を捧げた『息子』として認識し、創始者をこうした次元のメシヤとして定義している</b> 」(p63)	「 <b>アダムとエバは、人類の始祖であると同時に、天地を主宰する神様となるのです。実体をもった神様、すなわち永遠の無形世界の神様の形状を代わりにもって現れた立場で、父母の立場で世界を統治する責任がアダムとエバにあったのです</b> 」(八大教材・教本『天聖經』 p124)  「 <b>今、(霊界に)行ってみれば、(神様が)霊界の父母の立場で、文総裁夫婦の顔が現れて、きらびやかな光で見える……</b> 」(『ファミリー』 2003年5月号 p27)